

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

20.7.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

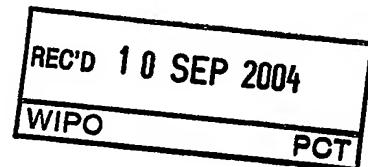
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年10月17日

出願番号
Application Number: 特願2003-358314

[ST. 10/C]: [JP2003-358314]

出願人
Applicant(s): 鐘淵化学工業株式会社



BEST AVAILABLE COPY

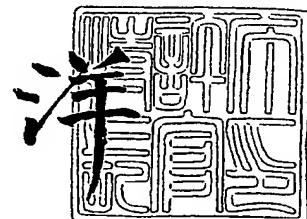
**PRIORITY
DOCUMENT**

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 8月27日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小川



【書類名】 特許願
【整理番号】 B030376
【提出日】 平成15年10月17日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 D01F 6/92
【発明者】
【住所又は居所】 兵庫県高砂市米田町塩市20-12
【氏名】 増田 敏幸
【特許出願人】
【識別番号】 000000941
【氏名又は名称】 鐘淵化学工業株式会社
【代表者】 武田 正利
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 005027
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

ポリエステル系繊維（A）からなり、楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3～8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状を有するポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 2】

繊維断面が、2個以上の円または扁平円が部分的に重ね合わさるか、または、互いに接した形状である請求項1記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 3】

繊維断面が、3～8葉形であり、式（1）で表される異形度が、1. 1～8の範囲にある異形断面繊維である請求項1記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【数 1】

$$(異形度) = \frac{(単様維断面の外接円の直径)}{(単様維断面の内接円の直径)} \quad (1)$$

【請求項 4】

繊維断面の扁平比が1. 2～4である請求項1記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 5】

前記ポリエステル系繊維（A）が、円形と、楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3～8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状の混合繊維であり、円形断面：異形断面の混合比が、8：2～1：9である請求項1記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 6】

前記ポリエステル系繊維（A）が、ポリアルキレンエチレンテレフタレートおよびポリアルキレンエチレンテレフタレートを主体とする共重合ポリエステル（B）とリン系難燃剤（C）および／または臭素系難燃剤（D）を溶融混練して得られる組成物から形成されたポリエステル系繊維である請求項1～5のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 7】

前記ポリアルキレンエチレンテレフタレートおよびポリアルキレンエチレンテレフタレートを主体とする共重合ポリエステル（B）が、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレート、ビスフェノールAのエチレングリコールエーテルを共重合したポリエステル、1, 4-シクロヘキサンジメタノールを共重合したポリエステル、5-ナトリウムスルホイソフタル酸ジヒドロキシエチルを共重合したポリエステル、ポリエチレンテレフタレートとポリエチレンナフタレートのポリマー-アロイ、ポリエチレンテレフタレートとポリアリレートのポリマー-アロイおよびポリエチレンテレフタレートとポリカーボネットのポリマー-アロイよりなる群から選ばれた少なくとも1種のポリマーである請求項1～6のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 8】

前記リン系難燃剤（C）が、ホスフェート系化合物、ホスホネート系化合物、ホスフィネート系化合物、ホスフィンオキサイド系化合物、ホスホナイト系化合物、ホスフィナイト系化合物、ホスフィン系化合物、縮合リン酸エステル化合物、リン酸エステルアミド化合物および有機環状リン系化合物よりなる群から選ばれた少なくとも1種の化合物である請求項1～6のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用繊維。

【請求項 9】

前記臭素系難燃剤（D）が、臭素含有リン酸エステル系難燃剤、臭素化ポリスチレン系難燃剤、臭素化ベンジルアクリレート系難燃剤、臭素化エポキシ系難燃剤、臭素化ポリカーボネット系難燃剤、テトラプロモビスフェノールA誘導体、臭素含有トリアジン系化合

物、臭素含有イソシアヌル酸系化合物よりなる群から選ばれた少なくとも1種の化合物である請求項1～6のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用纖維。

【請求項10】

前記ポリエステル系人工毛髪用纖維が、非捲縮生糸状である請求項1～9のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用纖維。

【請求項11】

前記ポリエステル系人工毛髪用纖維が、原着されている請求項1～10のいずれかに記載のポリエステル系人工毛髪用纖維。

【請求項12】

単纖維纖度が10～100d texである請求項1～11のいずれかに記載のポリエス
テル系人工毛髪用纖維。

【書類名】明細書

【発明の名称】ポリエステル系人工毛髪用纖維

【技術分野】

【0001】

本発明は、異形断面纖維に関するものであり、さらに詳しくは、ウィッグ、ブレード、エクステンションヘア等の頭髪装飾用等の人工毛髪用纖維として用いられる、人毛に似た艶、色相、風合、嵩高性を有する異形断面纖維、及びこの異形断面纖維を用いた人工毛髪用纖維に関するものである。

【背景技術】

【0002】

一般に、毛髪用に使用される合成纖維としては、アクリロニトリル系纖維、塩化ビニル纖維、塩化ビニリデン纖維、ポリエステル纖維、ナイロン纖維、ポリオレフィン纖維等がある。従来から、これらの纖維を用いて、ウィッグ、ブレード、エクステンションヘア等の人工毛髪用商品に加工されてきたが、これらの纖維には、耐熱性、カーリング性、触感等の人工毛髪用纖維として必要な特性の全てを同時に備えるものが少ないため、頭飾製品を製造する時、単独の纖維では種々の特性を満足させる製品を作ることができず、各纖維の特性に応じた製品が作られ使用されており、また、それぞれの商品性に適合する纖維の断面形状が研究され改良が重ねられてきた。

【0003】

例えば、繭形断面形状における最長部分L、両端の円形部分の径W、および中央部のくびれた部分の幅Cの長さを特定の範囲内に限定したかつら用フイラメント（特許文献1）、纖維横断面における重心を通る最大径（L）を所定の範囲に限定した人造毛髪用合成纖維（特許文献2）、断面が略円形もしくは楕円形をなす四本の単位フイラメントが一本の単位フイラメントに対し他の三本の単位フイラメントを等間隔をもって放射状に隣り合った断面Y字形であって、隣接するもの同士の接点が、該単位フイラメントの半径に略等しい幅で接続したウィッグおよびブレード用フイラメント（特許文献3）、少なくとも2個の扁平円を部分的に重ねた断面形状を有し、その短軸の長さWと長軸の長さLとの比L/W、隣り合う2つの扁平円の中心間の距離C、更に2つの扁平円の中心間を結ぶ直線と扁平円の長軸のなす角度等を限定したかつら用フイラメント（特許文献4）などが挙げられる。

【0004】

しかし、上記のような従来の人工毛髪用纖維として開発された纖維は、いずれも纖維断面形状の長さや角度が極めて限られた数値で限定された特異な形状を有しており、製造が必ずしも容易でないのに加えて、ブレード用やエクステンションヘア用として用いた場合に必ずしも好ましい風合を有するものではなく、スタイルの保持やストレート性を重視するあまり、硬い触感の纖維となりがちであった。又、手作業時の扱い易さといった点でも充分ではなかった。また、扁平纖維は、従来からパイル用途には広く用いられていたが、かつら等の人工毛髪用纖維としては、ヘタリ感等が敬遠され、人工毛髪用纖維としての用途には不向きと考えられていた。

【0005】

一方、最近になって、ポリエステル纖維が耐熱性・耐久性の要求を十分に満たすことがわかり、人工毛髪用纖維としての使用が増えてきている。特に、ポリエステル系纖維は、耐熱性であるため、高温でセットすることが可能であるという長所がある。さらに、汚れた場合に普通の頭髪のように洗浄することができるが、ポリエステル系纖維は反復洗浄に対する耐久性が優れ、しかも洗浄後の形状戻り性が優れているという利点もある。しかしながら、ポリエステル系纖維は、従来用いられていたアクリル系纖維やポリ塩化ビニル等と比較して可燃性であるという欠点がある。合成纖維の可燃性という欠点を解消するためには、一般的に、難燃剤を用いて難燃化処理することが考えられる。しかし、一般的な紡織物の場合とは違つて、通常の難燃化処理に付した場合、難燃剤はただ単にフイラメントの表面上にコーティングされるだけであり、洗浄すると、表面にコーティングされた難

燃剤が洗い流されてしまうという問題点があった。

【特許文献1】実開昭48-13277号公報

【特許文献2】特公昭53-6253号公報

【特許文献3】実開昭63-78026号公報

【特許文献4】特開昭55-51802号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

本発明は、ポリエステル系纖維の耐熱性、強伸度などの纖維物性を維持し、カール特性の欠点を改善し、艶、触感やくし通りに優れた人工毛髪用纖維を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明者らは、前記課題を解決するために鋭意検討を重ねた結果、ポリエステル系纖維の断面形状を、特定の異形断面とすることにより、本発明を完成するに至った。

すなわち、本発明は、ポリエステル系纖維（A）からなり、楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3～8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状を有するポリエステル系人工毛髪用纖維であり、纖維断面が、2個以上の円または扁平円が部分的に重ね合わさるか、または互いに接した形状である、または、纖維断面が、3～8葉形であり、式（1）で表される異形度が、1.1～8の範囲にある異形断面纖維である、または、纖維断面の扁平比が1.2～4である、または、円形と、楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3～8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状の混合纖維であり、円形断面：異形断面の混合比が、8：2～1：9であるポリエステル系人工毛髪用纖維に関する。

【0008】

さらに、前記ポリエステル系纖維（A）が、ポリアルキレンエチレンテレフタレートおよびポリアルキレンエチレンテレフタレートを主体とする共重合ポリエステル（B）とリン系難燃剤（C）および／または臭素系難燃剤（D）を溶融混練して得られる組成物から形成されたポリエステル系纖維であり、前記（B）成分が、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレート、ビスフェノールAのエチレングリコールエーテルを共重合したポリエステル、1,4-シクロヘキサンジメタノールを共重合したポリエステル、5-ナトリウムスルホイソフタル酸ジヒドロキシエチルを共重合したポリエステル、ポリエチレンテレフタレートとポリエチレンナフタレートのポリマー、アロイ、ポリエチレンテレフタレートとポリアリレートのポリマー、アロイおよびポリエチレンテレフタレートとポリカーボネートのポリマー、アロイよりなる群から選ばれた少なくとも1種のポリマーであり、前記（C）成分が、ホスフェート系化合物、ホスホネート系化合物、ホスフィネート系化合物、ホスフィンオキサイド系化合物、ホスホナイト系化合物、ホスフィナイト系化合物、ホスフィン系化合物、縮合リン酸エステル化合物、リン酸エステルアミド化合物および有機環状リン系化合物よりなる群から選ばれた少なくとも1種の化合物であり、前記（D）成分が、臭素含有リン酸エステル系難燃剤、臭素化ポリスチレン系難燃剤、臭素化ベンジルアクリレート系難燃剤、臭素化エポキシ系難燃剤、臭素化ポリカーボネート系難燃剤、テトラブロモビスフェノールA誘導体、臭素含有トリアジン系化合物、臭素含有イソシアヌル酸系化合物よりなる群から選ばれた少なくとも1種の化合物であるポリエステル系人工毛髪用纖維に関する。

【0009】

さらには、前記ポリエステル系人工毛髪用纖維が、非捲縮生糸状であり、原着されており、単纖維纖度が10～100d texであるポリエステル系人工毛髪用纖維に関する。

【発明の効果】

【0010】

本発明によると、ポリエステル系纖維の耐熱性、強伸度などの纖維物性を維持し、人毛

に近い自然な艶や触感を有し、カール特性の優れた人工毛髪用纖維が得られる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0011】

本発明の纖維断面が、((図1)～(図3)(図中、長軸aと短軸bの比は、 $a/b = 1.2 \sim 4$ である。)に示す。)ように、2個以上の円または扁平円が部分的に重ね合わさるか、または互いに接した形状においては、部分的に重ね合わさるか、または互いに接した2個以上の円または扁平円は、直線上に並んだ状態であることが好ましく、左右で対称であることが好ましい。

【0012】

本発明の纖維断面が、3～8葉形の場合、((図4)～(図6)(図中、外接円の直径Dと内接円の直径dの比は、 $D/d = 1.1 \sim 8$)に例を示す。)においては、式(1)で表される異形度が、1.1～8の範囲であることが好ましく、1.3～6の範囲がより好ましい。異形度が8を超えると、触感、くし通りが低下し、1.1未満になると、触感が硬くなる傾向がある。また、9葉以上になると、真円断面との差異が小さくなり本発明の効果が小さくなる傾向がある。

【0013】

本発明の異形断面の扁平比(断面形状の長軸の長さと短軸の長さの比)は、(図7)に示す(図中、長軸xと短軸yの比は、 $x/y = 1.2 \sim 4$)ように、1.2～4の範囲であることが好ましく、1.5～2.5の範囲がより好ましい。扁平比が4を超えると、人毛に近い艶、触感が得られなくなり、1.2未満になると、風合が硬くなる傾向がある。

【0014】

本発明のポリエステル系纖維は、円形と、楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3～8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状の混合纖維として用いる場合には、円形断面：異形断面の混合比が、8:2～1:9であることが好ましく、7:3～2:8がより好ましい。

【0015】

上記のような本発明に係る異形断面纖維を人工毛髪用として使用する場合の纖度は10～100dtexの範囲とすることが好ましい。さらに、この異形断面纖維と人毛とを、任意の割合でブレンドすることによって毛髪用商品としての自由なスタイルを作ることができる。ブレンドに際しては、本発明に係る異形断面纖維のブレンド割合が高すぎると触感が硬くなり、一方、異形断面纖維のブレンド割合が低すぎると自由なスタイルを作ることができなくなる。このような理由から、ブレンド比は異形断面纖維を80～10重量%、人毛を20～80重量%の範囲とすることが好ましい。

【0016】

また、本発明に係る異形断面纖維は、前記、人毛の他に、従来から用いられている他の人工毛髪用纖維、例えば、アクリロニトリル系纖維、塩化ビニル纖維、塩化ビニリデン纖維、ポリエステル纖維、ナイロン纖維、ポリオレフィン系纖維などとブレンドして使用することもできる。

【0017】

本発明において用いられるポリエステル系纖維(A)は、ポリエチレンテレフタレートを代表とするポリエステル(B)単独で用いても良いが、安全性の点から難燃性を付与されたものが好ましく、例えば、ポリエチレンテレフタレートを代表とするポリエステル(B)に、リン系難燃剤(C)および/または臭素系難燃剤(D)を溶融混練して得られる組成物からの纖維や、ポリエステルに反応型リン系難燃剤を共重合させたポリエステルからの纖維を用いることができる。難燃性や耐熱性だけでなく、燃焼時にドリップし難く、人毛に似た適度につや消された自然な艶等の毛髪用纖維として優れた特性を持つポリエステル系纖維を用いることがさらに好ましい。

【0018】

本発明に用いられるポリアルキレンテレフタレートまたはポリアルキレンテレフタレートを主体とした共重合ポリエステル(B)としては、たとえばポリエチレンテレフタレー

ト、ポリプロピレンテレフタレート、ポリブチレンテレフタレートなどのポリアルキレンテレフタレートおよび／またはこれらのポリアルキレンテレフタレートを主体とし、少量の共重合成分を含有する共重合ポリエステル、およびそれらとポリアリレート、ポリカーボネートなどとのポリマー・アロイがあげられる。

【0019】

前記主成分とするとは、80モル%以上含有することをいう。

【0020】

前記共重合ポリエステルは、主体となるポリアルキレンテレフタレートの主鎖および／または側鎖に前記共重合成分が重縮合していればよく、共重合の仕方などには特別な限定はない。

【0021】

前記ポリアルキレンテレフタレートを主体とした共重合ポリエステルの具体例としては、たとえばポリエチレンテレフタレートを主体とし、ビスフェノールAのエチレングリコールエーテルを共重合したポリエステル、1,4-シクロヘキサンジメタノールを共重合したポリエステル、5-ナトリウムスルホイソフタル酸ジヒドロキシエチルを共重合したポリエステルなどがあげられる。

【0022】

前記ポリアルキレンテレフタレートおよびその共重合ポリエステルは、1種で用いてもよく、2種以上を組み合わせて用いてもよい。

【0023】

(B) 成分の固有粘度としては、0.5～1.4であるのが好ましく、さらには0.6～1.2であるのが好ましい。固有粘度が0.5未満の場合、得られる繊維の機械的強度が低下する傾向が生じ、1.4をこえると、分子量の増大に伴い溶融粘度が高くなり、溶融紡糸が困難になったり、繊度が不均一になる傾向が生じる。

【0024】

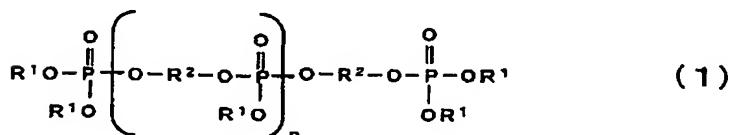
本発明に用いられるリン系難燃剤(C)にはとくに限定はなく、一般に用いられているリン含有難燃剤であれば使用することができ、例えば、ホスフェート系化合物、ホスホネート系化合物、ホスフィネート系化合物、ホスフィンオキサイド系化合物、ホスホナイト系化合物、ホスフィナイト系化合物、ホスフィン系化合物、縮合リン酸エステル系化合物、リン酸エステルアミド化合物および有機環状リン系化合物が挙げられる。これらは1種で使用してもよく、2種以上を組み合わせて用いてもよい。

【0025】

これらのなかでは、一般式(1)で表される縮合リン酸エステル系化合物、一般式(2)で表されるリン酸エステルアミド化合物、一般式(3)で表される有機環状リン系化合物が好ましい。

【0026】

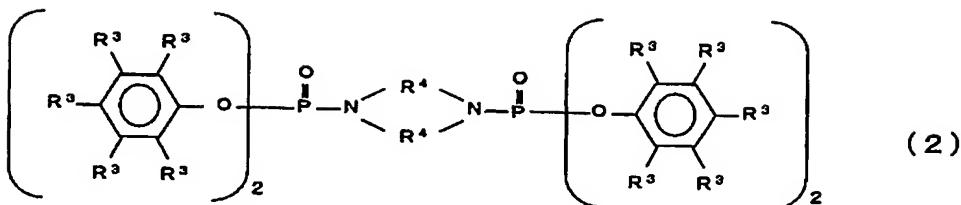
【化1】



(式中、R¹は1価の芳香族炭化水素基または脂肪族炭化水素基であり、それらはそれぞれ同一であってもよく異なっていてもよい、R²は2価の芳香族炭化水素基であり、2個以上含まれる場合、それらは同一であってもよく異なっていてもよい、nは0～15を示す)

【0027】

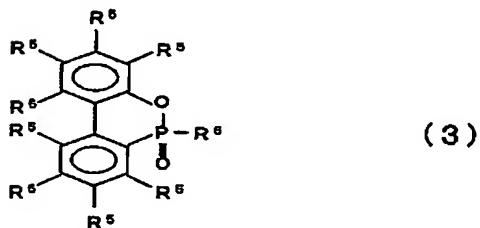
【化2】



(式中、 R^3 は水素原子、直鎖または分岐を有するアルキル基であり、それらはそれぞれ同一であってもよく異なっていてもよく、 R^4 は2価の直鎖または分岐を有するアルキレン基、直鎖または分岐を有するヒドロキシアルキル基、シクロアルキレン基、主鎖中にエーテル酸素を有するアルキレン基、置換または非置換のアリール基、置換または非置換のアラルキル基を示し、それらはそれぞれ同一であってもよく異なっていてもよい)

[0028]

【化3】



(式中、 R^5 は水素原子、直鎖または分岐を有するアルキル基であり、それらはそれぞれ同一であってもよく異なっていてもよく、 R^6 は水素原子、直鎖または分岐を有するアルキル基、直鎖または分岐を有するヒドロキシアルキル基、シクロアルキル基、置換または非置換のアリール基、置換または非置換のアラルキル基を示す)

上記 (C) 成分の使用量は、(B) 成分 100 重量部に対し、3～30 重量部が好ましく、4～25 重量部がより好ましく、5～20 重量部がさらに好ましい。使用量が 3 重量部より少ないと難燃効果が得られ難くなり、30 重量部より多いと機械的特性、耐熱性、耐ドリップ性が損なわれる。

[0029]

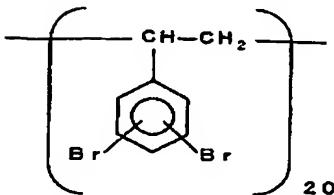
本発明に用いられる臭素系難燃剤(D)にはとくに限定ではなく、一般に用いられている臭素系難燃剤であれば使用することができ、臭素含有リン酸エステル類、臭素化ポリスチレン類、臭素化ポリベンジルアクリレート類、臭素化エポキシオリゴマー類、臭素化ポリカーボネートオリゴマー類、テトラブロモビスフェノールA誘導体、臭素含有トリアジン系化合物、臭素含有イソシアヌル酸系化合物などが挙げられる。これらは1種で用いてもよく、2種以上を組み合わせて用いてもよい。

[0030]

上記(E)成分の具体例としては、オクタブロモトリメチルフェニルインダン、トリス(トリブロモネオペンチル)ホスフェートなどの臭素含有リン酸エステル類。

【0031】

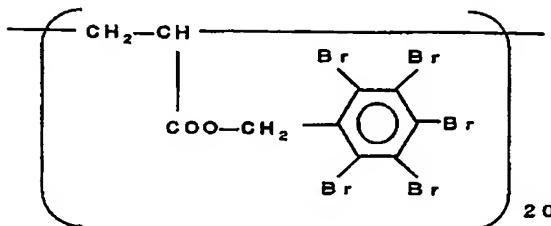
【化4】



などの臭素化ポリスチレン類、

【0032】

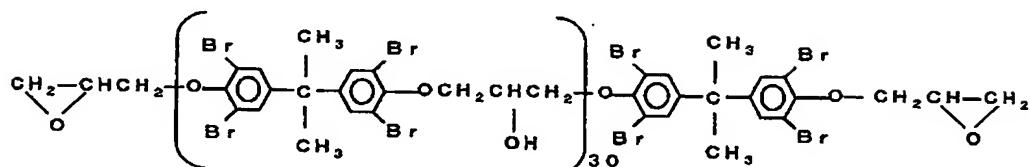
【化5】



などの臭素化ポリベンジルアクリレート類、

【0033】

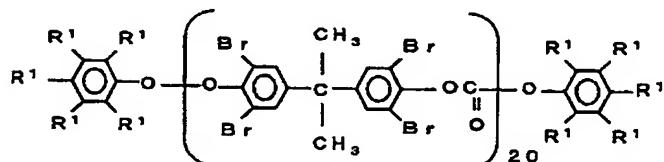
【化6】



などの臭素化工ポキシオリゴマー類、

【0034】

【化7】



などの臭素化ポリカーボネートオリゴマー類、テトラブロモビスフェノールA、テトラブロモビスフェノールA-ビス(2, 3-ジブロモプロピルエーテル)などのテトラブロモビスフェノールA誘導体、トリス(トリブロモフェノキシ)トリアジンなどの臭素含有トリアジン系化合物、トリス(2, 3-ジブロモプロピル)イソシアヌレートなどの臭素含有イソシアヌル酸系化合物などが挙げられる。

【0035】

これらの中では、臭素含有リン酸エステル系難燃剤、臭素化ポリスチレン系難燃剤、臭素化ベンジルアクリレート系難燃剤、臭素化工ポキシ系難燃剤、臭素化ポリカーボネート系難燃剤、臭素含有トリアジン系化合物、臭素含有イソシアヌル酸系化合物が好ましい。

【0036】

上記(E)成分の使用量は、(C)成分100重量部に対し、2~30重量部が好ましく、3~25重量部がより好ましく、4~20重量部がさらに好ましい。使用量が2重量部より少ないと難燃効果が得られ難くなり、30重量部より多いと機械的特性、耐熱性、耐ドリップ性が損なわれる。

【0037】

本発明に使用するポリエステル系繊維は、たとえば、(B)成分と、(C)および/または(D)成分を事前にドライブレンドした後、種々の一般的な混練機を用いて溶融混練することにより製造することができる。

【0038】

前記混練機の例としては、たとえば一軸押出機、二軸押出機、ロール、バンパリーミキサー、ニーダーなどがあげられる。これらのうちでは、二軸押出機が、混練度の調整、操

作の簡便性の点から好ましい。

【0039】

また、本発明の難燃性ポリエステル系人工毛髪用纖維は、架橋アクリル樹脂、架橋ポリスチレンなどの有機微粒子や、炭酸カルシウム、酸化ケイ素、酸化チタン、タルク、カオリンなどの無機微粒子を混合して、纖維表面に微細な突起を形成し、纖維表面の光沢、つやを調整することができる。

【0040】

本発明の難燃性ポリエステル系人工毛髪用纖維は、前記難燃性ポリエステル系組成物を通常の溶融紡糸法で溶融紡糸することにより製造することができる。

【0041】

すなわち、たとえば、押出機、ギアポンプ、口金などの温度を250～310℃とし、溶融紡糸し、紡出糸条を加熱筒を通過させたのち、ガラス転移点以下に冷却し、50～5000m/分の速度で引き取ることにより紡出糸が得られる。また、紡出糸条を冷却用の水を入れた水槽で冷却し、纖度のコントロールを行なうことも可能である。加熱筒の温度や長さ、冷却風の温度や吹付量、冷却水槽の温度、冷却時間、引取速度は、吐出量および口金の孔数によって適宜調整することができる。

【0042】

得られた未延伸糸は熱延伸されるが、延伸は未延伸糸を一旦巻き取ってから延伸する2工程法および巻き取ることなく連続して延伸する直接紡糸延伸法のいずれの方法によってもよい。熱延伸は、1段延伸法または2段以上の多段延伸法で行なわれる。熱延伸における加熱手段としては、加熱ローラ、ヒートプレート、スチームジェット装置、温水槽などを使用することができ、これらを適宜併用することもできる。

【0043】

本発明のポリエステル系纖維（A）には、必要に応じて、耐熱剤、光安定剤、蛍光剤、酸化防止剤、静電防止剤、顔料、可塑剤、潤滑剤などの各種添加剤を含有させることができる。顔料を含有させることにより、原着纖維を得ることができる。

【0044】

本発明のポリエステル系纖維（A）が原着されている場合、そのまま使用することができるが、原着されていない場合、通常の難燃性ポリエステル系纖維と同様の条件で染色することができる。

【0045】

染色に使用される顔料、染料、助剤などとしては、耐候性および難燃性のよいものが好ましい。

【0046】

本発明のポリエステル系纖維（A）は、美容熱器具（ヘアアイロン）を用いたカールセット性に優れ、カールの保持性にも優れる。また、纖維表面処理剤、柔軟剤などの油剤を使用し、触感、風合を付与して、より人毛に近づけることができる。

【0047】

本発明の人工毛髪用纖維を加工してウイッグ、ブレード、ヘアアクセサリー、人形の頭髪のような頭飾製品として使用することができる。

【実施例】

【0048】

つぎに、本発明を実施例に基づいてさらに具体的に説明するが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0049】

なお、特性値の測定法は、以下のとおりである。
(強度および伸度)

インテスコ社製、INTESCO Model 201型を用いて、フィラメントの引張強伸度を測定する。長さ40mmのフィラメント1本をとり、フィラメントの両端10mmを、接着剤を糊付けした両面テープを貼り付けた台紙（薄紙）で挟み、一晩風乾させ

て、長さ20mmの試料を作製する。試験機に試料を装着し、温度24℃、湿度80%以下、荷重1/30g f×繊度（デニール）、引張速度20mm/分で試験を行ない、強伸度を測定する。同じ条件で試験を10回繰り返し、平均値をフィラメントの強伸度とする。

(光沢)

長さ30cm、総繊度10万d texのトウフィラメントを太陽光のもと、目視により評価する。

【0050】

- ◎：人毛に等しいレベルに光沢が調整されている
- ：適度に光沢が調整されている
- △：若干光沢が多すぎる、または、若干光沢が少なすぎる
- ×：光沢が多すぎる、または、光沢が少なすぎる

(カールセット性)

表毛にしたフィラメントを32mmΦのパイプに巻きつけ、120℃、相対湿度100%で60分間のスチーム加工条件でカールセットし、室温で60分間エイジングしたのに、カールしたフィラメントの一端を固定し釣り下げ、カールの状態を目視評価する。これをカールの付きやすさの指標とし、長さが短く、形良くカールが付いているものが好ましい。

【0051】

- ：形良くカールが付いている
- △：若干カールが伸びている
- ×：カールが伸びて、形が崩れている。

(触感)

専門美容師による官能評価を行い、3段階で評価する。

【0052】

- ：人毛に似た非常に柔らかな風合い
- △：人毛に比べやや硬い風合い
- ×：人毛に比べ硬い風合い

(アイロンセット性)

ヘアーアイロンによるカールセットのしやすさ、カール形状の保持性の指標である。フィラメントを180℃に加熱したヘアーアイロンにかるく挟み、3回扱き予熱する。このときのフィラメント間の融着、樹通り、フィラメントの縮れ、糸切れを目視評価する。つぎに、予熱したフィラメントをヘアーアイロンに巻きつけ、10秒間保持し、アイロンを引き抜く。このときの抜きやすさ（ロッドアウト性）、抜いたときのカールの保持性を目視評価する。

(製造例1～5)

(表1)に示す比率の組成物を水分量100ppm以下に乾燥した後に着色用ポリエスチルペレットPESM6100 BLACK(大日精化工業(株)製、カーボンブラック含有量30%)2部を添加してドライブレンドし、二軸押出機に供給し、280℃で溶融混練し、ペレット化したのちに、水分量100ppm以下に乾燥させて、ポリエスチル系樹脂を得た。

【0053】

【表1】

		製造例				
		1	2	3	4	5
(B) 成分	EFG-85A ^{*1}	100	70	100	100	85
	KP-210 ^{*2}		30			
	U-4025 ^{*3}				15	
(C) 成分	有機環状リン系化合物 ^{*4}			10	10	
	SR-T20000 ^{*5}				10	
	PKP-53 ^{*6}	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
(D) 成分	イムジルA-8 ^{*7}	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5

* 1 : ポリエチレンテレフタレート、カネボウ合織（株）製

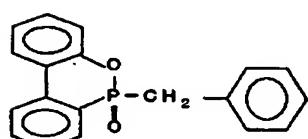
* 2 : ポリブチレンテレフタレート、KOLON社製

* 3 : ポリエチレンテレフタレート／ポリアリレートアロイ、ユニチカ（株）製

* 4 : SANKO BCA、三光（株）

【0054】

【化8】



* 5 : 臭素化工ポキシ系難燃剤、阪本薬品工業（株）製

* 6 : タルク、富士タルク（株）製

* 7 : シリカ、UNIMIN社製

(実施例1～10)

製造例1～5で得られたポリエステル系樹脂を、溶融紡糸機を用いて280℃で、異形ノズル1～3を用いて、紡糸口金より溶融ポリマーを吐出し、空冷し、100m/minの速度で巻き取って未延伸糸を得た。得られた未延伸糸を80℃の加熱ロールを用いて延伸を行ない、4倍延伸糸とし、200℃に加熱したヒートロールを用いて、30m/minの速度

で巻き取り、熱処理を行ない、単纖維纖度が60～70 d t e x のポリエスチル系纖維（マルチフィラメント）を得た。

((図8)中、Aは0.9mm、Bは0.4mmである。)

((図9)中、Aは1.0mm、Bは0.35mm、Cは0.25mmである。)

((図10)中、Rは0.6mm、rは0.4mmである。)

得られた纖維について、強伸度、光沢、触感、カールセット、アイロンセット性を評価した結果を(表2)に示す。

【0055】

【表2】

	実施例							
ノズル形状	異形1	異形1	異形1	異形1	異形2	異形2	異形3	異形1／真円 $= 67 / 33 = 50 / 50$
織度 (d tex)	60	60	60	67	64	68	65	68
強度 (cN/d tex)	2.9	2.7	2.6	2.5	2.3	2.3	2.2	1.8
伸度 (%)	4.8	7.0	5.3	6.8	5.8	5.4	5.3	3.8
光沢	○	○	○	○	○	○	○	○
触感	○	○	○	○	○	○	○	○
カールセット	○	○	○	○	○	○	○	○
アイロンセット (180℃)	融着	○	△	○	○	○	○	○
縮れ/糸切れ	○	△	○	○	○	○	○	○
口ッドアウト	○	△	○	○	○	○	○	○
セット性	○	△	○	○	○	○	○	○

(比較例 1 ~ 4)

製造例 1 ~ 4 で得られたポリエステル系樹脂を、真円ノズルを用いて、実施例と同様にして、単纖維織度が 50 d tex 前後のポリエステル系繊維（マルチフィラメント）を得た。

【0056】

得られた繊維について、強伸度、光沢、触感、カールセット、アイロンセット性を評価した結果を(表3)に示す。

【0057】

【表3】

製造例	比較例		
	1 ノズル形状	2 真円	3 真円
織度 (d tex)	4.9	5.2	5.0
強度 (cN/d tex)	2.5	2.1	2.2
伸度 (%)	4.7	5.8	5.2
光沢	△	△	○
触感	△	△	△
カールセット	○	△	○
アイロンセット (180℃)	融着 縮れ/糸切れ	○ ×	○ ○
ロッドアウト	△	×	○
セット性	○	×	○

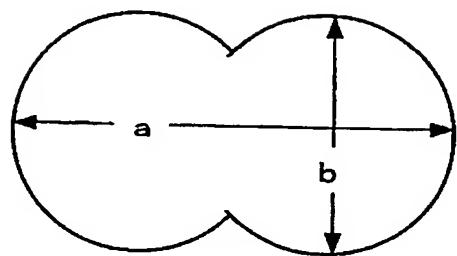
表2および表3に示したように、比較例に対し、実施例では、光沢、触感、カールセット、アイロンセット性に優れることが確認された。従って、今回の楕円形、交差円形、繭形、だるま形、ドッグボーン形、リボン形、3~8葉形、星形よりなる群から選ばれる少なくとも1種の異形断面形状を有するポリエスチル系人工毛髪用繊維は、従来のポリエスチル系人工毛髪用繊維比べ、強伸度、耐熱性等のポリエスチル系繊維の特徴を損なうことなく、光沢、触感を改善し、良好なカール特性を有する人工毛髪用繊維として用いることが可能であることを確認した。

【図面の簡単な説明】

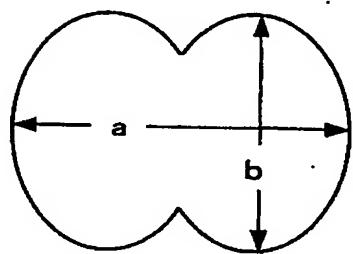
【0058】

- 【図1】交差円形断面図
- 【図2】交差扁平円断面図
- 【図3】ドッグボーン形断面図
- 【図4】3葉形断面図
- 【図5】5葉形断面図
- 【図6】7葉形断面図
- 【図7】異形断面の扁平比説明図
- 【図8】異形ノズル1
- 【図9】異形ノズル2
- 【図10】異形ノズル3

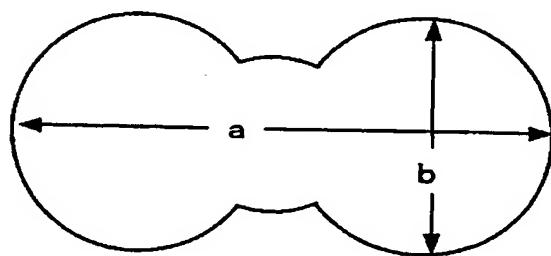
【書類名】 図面
【図 1】



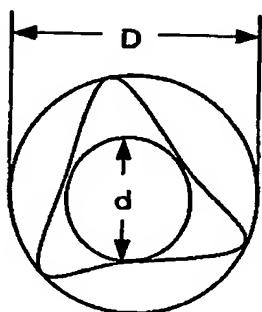
【図 2】



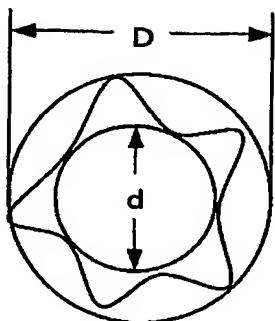
【図 3】



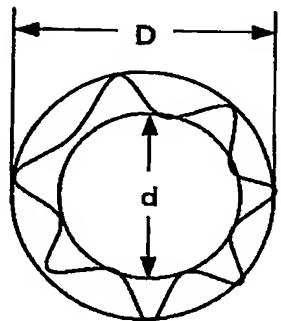
【図 4】



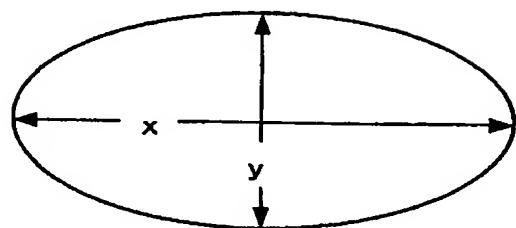
【図5】



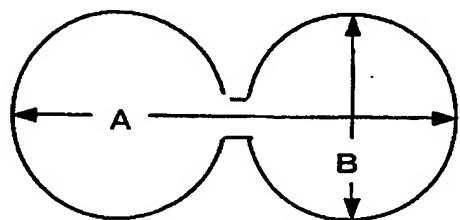
【図6】



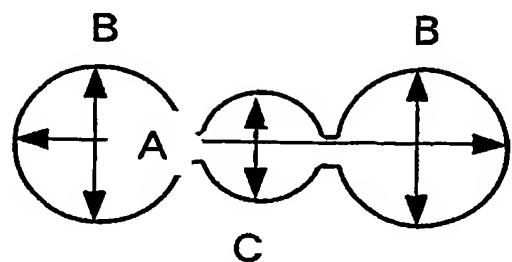
【図7】



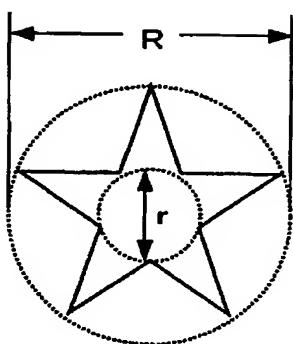
【図8】



【図 9】



【図 10】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 ポリエステル系繊維の耐熱性、強伸度などの繊維物性を維持し、カール特性の欠点を改善し、艶、触感やくし通りに優れた人工毛髪用繊維を提供する。

【解決手段】 ポリエステル系繊維（A）からなり、少なくとも1種の異形断面形状を有するポリエステル系人工毛髪用繊維であって、繊維断面が異形断面形状の混合繊維であり、円形断面／異形断面の混合比が、8：2～1：9であるポリエステル系人工毛髪用繊維を用いることで、上記課題を解決したポリエステル系人工毛髪用繊維が得られる。

【選択図】 なし

特願 2003-358314

出願人履歴情報

識別番号

[000000941]

1. 変更年月日

[変更理由]

住 所

氏 名

1990年 8月27日

新規登録

大阪府大阪市北区中之島3丁目2番4号

鐘淵化学工業株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.